明治期の浜松医者屋敷と庭園の建設過程に関する研究

A STUDY ON THE CONSTRUCTION PROCESSES OF THE CLINIC AND GARDEN IN HAMAMATSU DURING THE MEIJI PERIOD

鈴木里佳*, 三浦彩子**
Rika SUZUKI and Ayako MIURA

Teiji Uchida, a doctor in *Hamamatsu* City during the Meiji period wrote fourteen volumes of diary named “*Meiji-nenchu-zatsuroku*” (thirteen exist today). This paper describes the process of the construction of his clinic facilities including the gardens by looking up the whole volume of the documents.

1. Five buildings and accompanying gardens were constructed at the start of the clinic around 20th year of Meiji. Construction of the buildings and gardens seems to be done in the same period.
2. *Kuwakichi Takahashi* was in charge of the construction. He was also commissioned of “wood construction” of the local temple. He expanded business to real estate area and was concerned with the later expansion of the premises.
3. *Niwahei* was in charge of gardens. He was a well-known gardener of the district. He dedicated himself to the project making trips with the client seeking the desirable trees.

Keywords : *Teiji Uchida, Clinic, Construction process, Gardener, Hamamatsu, The Meiji era*

内田貞二, 診察所, 建設過程, 庭師, 浜松, 明治時代

1. はじめに

内田貞二¹⁾は、明治時代に現在の浜松市中区新町の旧東海道沿いで開業した蘭方医であり、安政のコレラ流行期の感染予防書である『防疫貴目』や、幕政の天保の改革に対する政策批判を述べた書物である『破地土等纂』の作者としても知られる。

開業当時の診察所および屋敷内の様子は、明治20年代の農・工・商家の邸宅や神社、仏閣、名所旧跡、学校などの銅版画を収録した『静岡県明治銅版画風景集』²⁾から推察することができる。さらに、内田貞二は明治14年から32年(1881~1899)までの18年間にわたり、総数14冊に及ぶ『明治年中雑録』を書き残しており、これらは現在、浜松市立中央図書館に所蔵されている。

『明治年中雑録』はこれまでに、診察録や、医師会の議事録など、主に医院業務に関する内容が紹介されており³⁾、内田貞二の晩年期の日記風の手控とされてきた。しかし同時に、屋敷修繕に従事した職人の施工日時や内容、職人名、報酬金額も記録されており、施主である貞二が、発注工事の作業の進行状況から従事者の人工数などを書き留める目的があったと捉えられる。そこで本研究では、『明治年中雑録』を屋敷や庭園管理に関する詳細な工事記録であるとして再評価を行い、建築と庭園の建設過程を明らかにするものである。

2. 『明治年中雑録』について

『明治年中雑録』は、寸法縦34.0×横12.6 cmの和装本であり、美濃判和紙を横に細長く二ッ折りにして、1冊につき約60枚が綴じられている。冊数は、『明治年中雑録 壹』から『明治年中雑録 拾肆』までの14冊から成る(図1)。保存状況は、一部、虫損の著しい箇所があるものの全体的に良好であるが、『明治年中雑録 拾参』を欠失している。作成時期は、明治14年8月31日から明治32年2月26日までの約18年間にわたるもので、表1(『明治年中雑録』各巻内容一覧)として、各巻の作成時期と丁数、それぞれの記載事項を整理した。『明治年中雑録』の内容は、来客の覚書や、日常的な屋敷管理・庭園管理に関する文章であり、これらは「七月廿八日午後一時半頃ヨリ庭平小安」と、日付を付した後、職人名を連記した表記法である。従って『明治年中雑録』の原文の解説から、明治14年から32年までの期間における内田家⁴⁾の屋敷修繕に従事した職人の施工日時や施工内容、報酬金額の詳細が判明する。また後述するように『明治年中雑録 参』には地租改正下調帳の一部写しや、土地売買についての記載があり、土地の購入経緯や、凡その規模や形状の推定が可能である。この他に、曹洞宗松屋山萬福寺⁵⁾に関する事項が見られ、『明治年中雑録』は、寺院の修復、小作納記、自邸の屋

* 名城大学大学院理工学研究科 博士後期課程・工修

** 名城大学理工学部建築学科 助教・工博

Doctoral Course, Graduate School of Science and Engineering, Meijo Univ., M. Eng.
Assistant Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Science and Technology, Meijo Univ.,
Dr. Eng.

図1 『明治年中雑録』全巻表紙⁶⁾ (写真左より壹巻)

図2 内田正郎(『静岡県明治銅版画風景集』より抜粋)

敷管理、庭園管理、地租改正といった、明治中頃の地方情勢の具体的な動向を知る上でも重要な史料である。

以上に述べた『明治年中雑録』の現存する全13冊の内容から、内田家の屋敷及び庭園に関する主要な原文や絵図を抜き出し、次章以降で屋敷の新築・補修を含めた建設経緯と造園内容を明らかにする。

3. 屋敷地の成立過程

3. 1 内田家屋敷に関する絵図資料

内田家の屋敷は、浜松城より東方向の敷知郡濱松町新(現在の静岡県浜松市中区新町)に位置する。屋敷は、後に家督を継いだ貞二の長男である内田正に継承されたが、第二次世界大戦時に一帯は焼失している⁷⁾。東海道沿いの、江戸時代から町屋が形成される、城下町に近い地区にあったが⁸⁾、明治時代の内田家の屋敷構えの様子を、図2に示した『静岡県明治銅版画風景集』に掲載された銅版画から推察することができる。この文献に関する既往研究には、銅版画に描かれた屋敷林に着目して、静岡県の伝統的な樹木構成を分析した研究⁹⁾がある。その他、銅版画から日除けの形状を集計して、その

発生と普及について考察した研究¹⁰⁾、銅版画と建築写真との照合から、銅版木の描写の内容が極めて正確であることを確認し、明治期の小学校について考察した研究¹¹⁾などがある。

本研究で分析する『静岡県明治銅版画風景集』は、静岡県の全エリアにある369件の寺院・個人邸宅の鳥瞰図を収録したものである。この中の「静岡縣遠江國敷知郡濱松町新 醫士 内田正」と題した銅版画には、往来のある東海道側を正面とした細長い敷地内に、大小合わせて8棟の建物の他、桜樹を多く配植させた庭園が鳥瞰図風に精密に描写されている。この内田家銅版画に関連する記述を、以下の『明治年中雑録 捌』の明治24年8月1日の原文において確認することができる。

①『明治年中雑録 捌』(明治24年8月1日の原文より抜粋)

宅舎図 八月一日画工兩人来寫其大略

これは明治24年8月1日に、画工が「宅舎図」すなわち、屋敷内の建物図面の写しを行ったことを述べた内容であるが、その目的に

表1 『明治年中雑録』各巻内容一覧

史料名称	年月日	丁数	主な内容
『明治年中雑録 壹』	明治14年8月31日	60	来客、屋敷管理、庭園管理、萬福寺関連、小作納記、第四醫區研習會、政治経済、周平箋、正児箋、畑地賣渡ノ証
『明治年中雑録 貳』	明治15年12月13日	57	来客、屋敷管理、庭園管理、萬福寺関連、小作納記、萬平報家兄箋、医会、診客録、胡枝花七種十六年花期、我家宅地之事、銀行工返金ノ事、奇東京周平書、株式譲渡譲受証書
『明治年中雑録 参』	明治17年9月1日	59	来客、屋敷管理、庭園管理、新聞記事、仙林寺萬福寺関連、小作納記、別宅之北國亀圖圖、地租改正下調帳扣、菰花尾花開期、地震、暴風雨、細井や奈ヨリ買取タル地處境クイ之事、小栗松露、北側新買屋宅披露膳、細井屋家屋宅圖誌
『明治年中雑録 肆』	明治19年	60	来客、庭園管理、小作納記、東海通汽車預想、高橋準次郎田買受三付テノ諸件表、二十年家園春風花期、近隣櫻見定め、櫻花候次録、新庭欲植櫻、米相場
『明治年中雑録 伍』	明治21年1月24日 ～22年1月25日	60	来客、妙見南水吐談、庭園管理、萬福寺関連、萬福寺廟談、土地売買、廿一年庭園春花開次、廿一年晚春花談、富塚村山櫻ヲ尋檢ス、廿一年白藤露島談、濱遊、和漢三才図會摘名、家庭秋芳花開録、天竜川汽車道鉄橋全成
『明治年中雑録 陸』	明治22年2月1日 ～22年12月31日	57	来客、妙見南水吐談、廿二年櫻春開落、廿二年庭園賞櫻花記、富塚小藪尋櫻記、白藤露島記附山吹、楓葉早晚次第録、馬込堤西貸長屋、庭園秋草、暴風雨、屋敷管理、庭園管理(庭平及安廿貳年)、汽車浜松停車場開道式、浜松町議員選挙、鉄道新聞抄
『明治年中雑録 漆』	明治23年1月 ～24年7月29日	60	来客、妙見南水吐談、西京勝遊時期、廿三年花候、觀櫻客、遊行觀櫻花記、鴈鴉花、廿三年四月以來天氣之續也、廿四年庭園花候、屋敷管理、庭園管理(庭平)、新聞記事、萬福寺関連、選挙
『明治年中雑録 捌』	明治24年7月31日	57	来客、妙見南水吐談(法雲寺前水吐一條)、屋敷管理、庭園管理(庭平)、新聞抄、萬福寺関連、暴風雨、地震、宅舎図、菰、醫會、廿五年春風花候
『明治年中雑録 玖』	明治25年12月10日	60	来客、妙見南水吐談、庭園管理(庭平)、花候大略、余出テ櫻花ヲ尋ス、新聞記事、濱松老年會、各地暴風雨、井上樞密顧問官遊濱松、内田貞二廃業届、小栗松露君八秩壽筵
『明治年中雑録 拾』	明治26年10月	59	来客、書籍廣告、屋敷管理(大工五三郎)、庭園管理(庭平)、新聞記事、濱松老年會、小栗松露翁没、地目變換檢査、櫻花宴客、旧城主井上君來濱、雑誌、金原明善、新購書籍
『明治年中雑録 拾壹』	明治27年5月 ～28年10月31日	59	来客、屋敷管理、庭園管理(庭平)(庭平等諸記)、新聞記事、萬福寺関連、書籍廣告、萬平礎、東京大震災、各地方市別現住人口表、廿七年櫻種立場假記、上中島竹商、廿八年櫻客
『明治年中雑録 拾貳』	明治28年11月1日	60	来客、屋敷管理(庭平等及諸匠土木類)、庭園管理(庭平等及諸匠土木類)、雜類、新聞抄、周平旭等記、家人親戚門生奴婢、櫻客
『明治年中雑録 拾参』	欠失		
『明治年中雑録 拾肆』	明治31年1月	60	来客、屋敷管理(庭平及土木諸工)、庭園管理(庭平及土木諸工)、新聞抄、周平旭等記、家人親戚門生奴婢、雜録、中亭北齋富士下風書

補注：「主な内容」欄の作成にあたり、原文の見出しを引用したのものについては下線を付して区別した。年月日は、表紙に記載された日付を記した。

については、以下の共通点に基づいて推測することができる。『静岡県
明治銅版画風景集』に掲載された個人邸宅の銅版画の中で、「静岡県
遠江國長上郡 小野田村大字内野廿四番地 農 横田定吉邸宅」に
は、「明治廿四年七月十五日家宅ノ真景ヲ模寫シテ」とした説明書き
がある。これは原文①と同時期の明治 24 年 7 月 15 日に調査が行わ
れたことを示しており、この事例から類推して、原文①は、図 2 の
内田正邸の銅版画制作のための屋敷調査である可能性が指摘される。

3. 2 屋敷地の規模の推定

銅版画から分かる屋敷構えの特徴は、敷地の形状は南北に長く、
東海道に面した正方形に近い北敷地と、奥の細長い南敷地の 2 つの
区画から構成される。次に、北敷地の規模について『明治年中雜録』
の原文及び宅地図から関連する部分を抜粋して推定を行う。

②『明治年中雜録 貳』（明治 16 年 8 月 18 日の原文・図を抜粋）

我家宅地之事

明治十六年八月十八日余長澤氏ニ於テ戸長役場ノ新町宅地記ヲ視ルニ

我家ノ宅地ハ右ノ如シ

(図 3 に示す)

図 3 『明治年中雜録 貳』新町宅地記による宅地図

③『明治年中雜録 参』（明治 18 年 11 月 17 日の原文より抜粋）

細井屋家屋宅圖談

桑吉先ヅ此話アリ廿一日頃庄五妻ヲ以テ阿柔ニ何如ヲ問フ

④『明治年中雜録 参』（明治 19 年 1 月の原文より抜粋）

長澤寛次郎氏所蔵ノ 遠江國敷知郡新町 地租改正下調帳 扣原本縦長 半紙本

ヲ借り我家ニ於テ要用ナル 部ヲ鈔寫スル左ノ如シ

七十六翁 内田貞二識

(以下主要部分を図 4 に示す)

図 4 『明治年中雜録 参』地租改正下調帳写の一部抜粋¹²⁾

⑤『明治年中雜録 参』（明治 19 年 1 月 20 日の原文より抜粋）

細井や奈ヨリ買取リタル地處 境クイ之事

十九年一月二十日貞翁桑吉立具真三人立會ニテ境クイヲ打ツ寅畑モ地券
面三畝九歩ノ由寅畑境クイハ彼ノ境内ニ打ツ三処我畑境クイハ境内ニ打
ツ四処也我ト寅ト両家境クイノ間式尺寸寸幅ニテ長式拾間高橋忠平買取
ノ路地其坪七坪其地券面モ七歩也細井や奈新町宅地南境ニ境クイ
式本打ツ是レモ彼宅境内ニ打ツ其宅本東ニ在ル者ハ前ニ説ク寅境クイノ
三処ノ宅ニテ細井南境ノ目当トナル者也(以下略)

⑥『明治年中雜録 拾』（明治 27 年 3 月 31 日の原文より抜粋）

地目變換検査(廿七年)

隠居建築前買込タル舊私路地貳尺寸寸幅貳拾間長ニテ地坪七歩ナル内貳
歩ハ固ヨリ市街宅地其餘南五歩ハ畑地ノ分ナルヲ隠居建築ニ付其五歩ヲ
西郡村宅地宅筆ト合併シ五歩ノ畑地地目ヲ變換シ郡村宅地ト為スコトヲ
其節届出シ置キタルニ付(以下略)

図 5 屋敷見取図¹³⁾

これらの原文と図について、以下に対応関係を述べる。図3の宅地図は、原文②の説明図であり、明治16年8月当時の内田家の宅地の規模を示す。後年の明治19年1月に書かれた図4の地租改正下調帳写には、細井屋奈、内田貞二、長澤元次郎所有の3つの宅地が並び示されるが、長澤宅地の追記にある「貞二日ク今我家本宅併之」の内容は、図3の宅地図が図4に示した長澤元次郎宅地と内田貞二宅地を併せた規模であることと一致している。さらに、③の原文にある明治18年11月の細井屋奈宅地の購入話と、明治19年1月の⑤の原文「細井や奈ヨリ買取りタル地處」から、図4に示された3つの宅地は、明治19年1月20日までに、全て内田家の所有となった。これにより、明治19年1月時点の北敷地の規模は、図5に示すように東海道側間口11間1尺4寸、奥行15間4尺と推測される。

一方の南敷地に関しては、地租改正の写しが無く、詳細な敷地寸法を確認することができない。そのため、原文⑤と⑥に共通して書かれた、「幅2尺1寸長さ20間」の土地の地目変換の経緯から敷地寸法を推測する。原文⑤の下線部の記録から、高橋忠平から貞二が購入した路地が、寅の畑地と貞二の畑地の間にあり、幅2尺1寸長さ20間であったことが示されている。原文⑥では、この路地が「隠居建築前買込タル舊私路地」とされ、その路地の南部分5歩を「隠居」建築の施工時に、西の郡村宅地と一筆とし宅地に地目変換したと記されている。銅版画に描かれた南敷地の東塀に沿った建物を「隠居」

建築と想定すると、⑤の「我畑」とは南敷地を指すものと考えられ、南敷地の奥行きは20間と推測される。以上の屋敷地の成立時期について再整理すると、屋敷地の成立は明治19年1月頃で、その後、画工の調査が行なわれた明治24年8月までに、銅版画に見られるような屋敷の様子にするための建築や庭園の整備が行われた。

4. 屋敷及び庭園の作事について

『明治年中雜録』に記載された屋敷及び庭園の作事について、年表を整理したものが、[表2]（屋敷及び造園工事年表 明治14年～明治24年）と[表3]（屋敷及び造園工事年表 明治25年～明治31年）である。屋敷工事の項目は、北敷地と南敷地に区別して表を作成し、建物毎に工事の経緯を示した。また造園工事については、工事の項目を「施工」「維持管理」「調達」の大項目で区別し、大項目をさらに作業種毎の小区分に分類して、日付と作業の内容を原文から抜粋して年代順に表を作成し、工事の経緯を示した。屋敷地には、図5に示すように、北敷地内にある「西庭」、南敷地内の「隠居庭」「園中」の計3箇所に庭園が存在したことが、図2の銅版画からも確認されるが、原文から施工位置が明らかなものについては、表に記載した【月日】の冒頭に、それぞれ別の記号（○－西庭 △－園中 ◎－隠居庭）を付記し、施工位置を区別した。

明治16年2月に内田貞二の長男の正が宅地を相続し¹⁴⁾、それに

表2 屋敷及び造園工事年表 明治14年～明治24年

対象	年代	明治14年	明治15年	明治16年	明治17年	明治18年	明治19年	明治20年	明治21年	明治22年	明治23年	明治24年
		1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891
敷地	建物工事	第1期工事						第2期工事				
	宅地図			【8月18日】我家宅地之事			【1月】地租改正下調帳写					
敷地	杭打ち			【11月17日】細井屋奈屋主圖談			【12月】境クイ実測			【1月20日】細井や奈ヨリ買取りタル地處境クイ之事		
	杭打ち			【12月】境クイ実測			【1月20日】細井や奈ヨリ買取りタル地處境クイ之事			【8月1日】宅舎図画工写		
屋敷工事	北敷地	倉※1	【10月31日】左官壁修繕		【9月、11月11日～】大工左官修繕、倉壁修復							
		離亭		【9月】左官修繕		【4月20日～5月31日】天井大工・壁左官修繕工事						
		診療所(病室)		【8月9日～10月2日】大工修繕		【8月9日～10月2日】素建工事						
		上雪院(西方雪院)		【10月7日頃～10月9日】廊下工事								
		棧		【9月】大工左官修繕								
		井戸				【5月】井戸修復			【2月11日】掃除修繕		【8月】修繕	【7月31日】井戸掃除
		園亭(新亭)								【8月24日】園亭上棟		
		灰造棧										
		穀倉									【11月28日】新窓工事	
		土蔵										
造園工事	南敷地	隠居									【6月20日21日】タキ浴室、玄関床、北簷下	
		植付	高木					○【12月】桜松	【2月23日】桜	○△【3月4月】桜	【3月4日】松	△【2月上旬】桜
			低木						【3月8日～24日】松楓桜	【3月30日～4月5日】松を山採り	◎【2月8日9日】楓	◎【2月8日9日】楓
			草物						【11月下旬】桜松		△【3月11日16日】桜山椒	【3月下旬4月上旬】松
		移植	高木								◎【3月下旬～4月上旬】松	◎【4月1日】松を山採り
			低木								△【4月1日】桜	【6月17日～19日】楓柳栗
			草物									◎【6月22日】梅柏
		地覆	高木									【4月15日】薔薇
			低木									
			草物									
		築山・庭石										
維持管理	維持管理	土工事										
		垣										
		剪定・刈込										
		垣・棚修理										
		虫駆除										
		肥料										
		購入校踏査										
		材料購入										
		調達										
		調達										

補注：【 】内は原文中の日付を表す。※1「倉」と「土蔵」「穀倉」とが、同一建物であるか判断できないため別欄に分けて記載した。庭の凡例は○－西庭、△－園中、◎－隠居庭に従う。

ともなう屋敷地の拡張と、屋敷の新築や修繕のための工事が始まった。なお、建築工事については長男正が主体的に行ない、貞二は軽微な修繕工事と庭園を主に担当していたものと考えられる¹⁵⁾。この作事の全体の流れを大別すると、明治15年から明治16年に行なわれた、建物全般に及ぶ軽微な修繕と、「診療所」の素建を主とした〔第1期工事〕。そして、明治19年から明治24年の、「園亭」や「隠居」新築により、銅版面に描かれた屋敷形態となる〔第2期工事〕。そして、それ以降に行なわれた「園亭(中亭)」の増築や「土蔵」の修復、「上雪院(西方雪院)」「聚遠楼」の屋根葺替といった〔第3期工事〕の、3期にわたり建築工事が行われている。

一方、造園工事については、明治14年から明治18年にかけては、庭園の日常的な手入れから、軽微な移植を主としたものであった。また、明治20年12月から「園亭」近くの「西庭」の造園工事が始まり、これは明治22年8月の園亭上棟に先駆けて行われている。明治21年12月に「西庭」の築山改修、明治22年3月頃からは「園中」付近の造園にも着手し、明治22年6月にかけて、桜樹や松など高木の植栽が行われている。さらに、明治23年3月頃から「隠居庭」の本格的な造園工事は始まり、明治24年の2月から春先にかけて、高木の植付けや移植が行われ、銅版面に見られるような植栽を主とした庭園の骨格がほぼ完成した。次に、第1期から第3期までのそれぞれの工期について、建物の起工と造園工事の相互関連を分析する。

4. 1 第1期工事について

第1期工事は、明治14年10月31日の左官定による「倉」壁の修繕から始まり¹⁶⁾、明治15年4月20日の大工桑吉による「離亭」の天井板張替え¹⁷⁾および、左官定による壁の補修が行なわれている¹⁸⁾。更に同年の8月9日から10月9日まで、「診療所」および「上雪院」の工事が行なわれており、その記録を〔表4〕(「診療所素建て」「上雪院廊下」工事に関する原文の抜粋)に整理した。人工数、大工との遣り取りまでを詳しく記録した、大工、左官、屋根葺職人の工賃の覚書と捉えられるが、この中で明治15年8月から行われた「診療所」の素建の位置については、細井屋奈宅地側の敷地拡張以前であるため、図5の北敷地内に示した㊸と㊹の区域にあったと考えられ、工事は、大工桑吉が施工し、9月末日に請負分として、56円75銭が支払われている。なお、10月2日の「桑吉又云ク診療所素立雑作共惣成百五拾老工心算也ト」から、「診療所」素建等の工事規模は、総数151人工にも及んだことが読み取れる。また、9月19日と21日に「定」「信」「勘」の3人の左官職人が従事したこと、屋根葺工事には、9月20日に勝組が施工したことなどが記載されており、その後、引き続き10月7日より「上雪院」の廊下工事が行なわれている。翌16年の9月には、「倉」「離亭」「診療所」「楼」といった建築物全般にわたり、開き戸の下削や立て付けの直し、湯殿のタキキ補修など大工と左官¹⁹⁾による軽微な補修工事が行なわれ、その後の同年11月11日から

表3 屋敷及び造園工事年表 明治25年～明治31年

対象	年代		明治25年	明治26年	明治27年	明治28年	明治29年	明治30年	明治31年
			1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898
	建物工事		第3期工事						
敷地					【3月31日】地目変換検査				
屋敷工事	北敷地	倉※1							
		離亭							
		診療所(病室)					【8月30日】屋上用水桶降ろす		
		上雪院(西方雪院)							【9月21日】屋根葺替工事
		楼							
		井戸				◎【6月】井屋工事	【7月8月】井園工事掃除		【8月16日】掃除
	南敷地	園亭(中亭)			【1月25日】増築工事依頼 【3月21日】南増築工事起工	【6月21日24日】北斎橋工事 【11月14日】南室障子発注			
		聚遠楼							【10月30日】屋根葺替工事
		穀倉							
		土蔵			【1月25日】大工に修繕相談	【7月】石工大工左官修繕			【1月17日】旧表壁中塗工事
	隠居			【8月14日～28日】南石畳敷下地					
	裏門外家屋					【9月18日頃】家屋工事相談 【10月12日】新宅地新井掘削依頼			
造園工事	施工	植付	高木	【3月21日】桜 【4月14日】柏 牡丹桜苗 【4月15日】楓 【3月22日】霧島園蔭	◎【4月1日2日】松 【4月23日24日】楓	【5月8日～12日】楓桜	【3月31日】桜 【4月2日～8日】桜		【3月6日27日】桜柳 【3月22日23日】檜葉樹 【3月25日26日】松を山採り
			低木 草物 地覆			【4月24日25日】霧島園蔭	【4月28日29日】園蔭	【3月11日～14日】園蔭を山採り 【3月11日～14日】園を山採り 【3月11日～14日17日】苔を山採り	【3月17日】黄萩
		移植	高木	【10月14日】老小柳を外へ出す	【1月31日～2月2日】桜 【4月18日19日】樹種不明		【3月4月】桜園蔭	【3月3日4日】桜松 【3月5日】霧島園蔭 【6月19日20日】樹種不明	【3月6日】桜 【9月24日】松 【11月15日16日】楓檜葉樹 【2月12日】山茶花
		低木		【6月19日】連翹				◎【3月28日29日】	
	維持管理	築山・庭石	◎【10月14日】		◎【4月3日4日】庭石				
		燈籠設置			◎【6月29日】2基設置				
		土工事			【4月20日25日】	【3月31日～4月10日】			
		垣		△【6月27日28日】欄	【4月17日】中亭袖垣				
	調達	購入桜踏査	【3月7日】梅接木 【5月26日】柳剪定 ◎【8月26日～28日】松剪定 【6月17日～19日】柳剪定	【5月7日～9日】松剪定 【6月19日】芝刈 【9月2日～5日】松剪定 【9月6日】西細葉刈込	◎【4月7日】除草 【4月25日6月11日】除草	【6月20日～24日】萩竹交換、剪定 ◎【9月26日】除草 【11月9日】萩刈	【5月1日～3日】苔 【7月8日9日】萩竹交換 【8月18日】萩竹 【8月28日～30日】松 【11月17日～21日】萩刈	◎【4月8日】離扉修繕	【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚
			垣・欄修理		【2月3日】藤棚 ◎【4月5日】垣	【7月3日4日】藤棚	【11月17日～21日】垣柱改造		【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚
詳細不明			【9月5日10月前半】	【4月12日～14日】 【10月25日～27日】	【6月12日～17日】 【8月13日～27日】 【9月7日～15日】 【10月6日8日】	◎【7月5日】 【7月】【8月上旬】 【9月3日～5日】 【9月28日29日】	【3月29日30日】【5月26日～31日】 【6月24日25日】【8月31日～15日】 【10月11日】 ◎【11月23日24日】	◎【4月8日】離扉修繕	【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚
虫駆除 肥料			【1月25日27日】		【1月31日】桜	【8月1日】	【7月24日～27日】楓桜 【2月4日5日】	【7月23日～28日】	【2月3日8日】肥料
材料購入		【3月】桜霧島園蔭 【4月14日】牡丹桜苗	【6月20日】夏菊4株	◎【6月19日】燈籠 【9月12日】赤土3車	【3月31日】赤土10車 【4月10日】赤土1車 【6月21日】鯉魚池 【7月4日22日】竹6本、22本 【8月9日】赤土7車	【4月初旬】赤土2車 【9月14日頃】赤土1車	【3月11日～13日】赤土18車 【3月14日】細葉苗400本 【4月】赤土	【11月】竹材	

補注：【 】内は原文中の日付を表す。※1「倉」と「土蔵」「穀倉」とが、同一建物であるか判断できないため別欄に分けて記載した。庭の凡例は○－西庭、△－園中、◎－隠居庭に従う。

表 4 「診察所素建て」「上雪院廊下」工事に関する原文の抜粋

日付	明治15年(1882)
8月9日	桑吉及常 八月九日ヨリ 来リエ工起コス
9月19日	左官九月十九日定信兩人雨ニテ早仕舞
9月20日	屋根勝等九月廿日頃老匠一人来板ヲモミ
9月21日	(左官)廿一日甚定信三人早仕舞
9月22日	(屋根勝)九月廿二日三人来リ葺ク
9月29日	神村徳太郎移居費談 九月廿九日桑吉云ク拙者方勘定ハ 惣ベ金式拾円〇拾八錢三厘五毛也 (註拾八錢字未詳)此外ノ諸費ヲ 入レテ金式拾四円ト為ル因テ此方ヨリ下サルメ金參拾円ノ内六円徳太郎ノ商資ト為ル也ト
日付なし	桑吉受負分西補診察所 素立豫約工手間食料共 蓋金五拾六円七拾五錢也
9月々末	桑吉勘定之事 九月々末 金五拾六円七拾五錢 診察所受負分ヲ皆渡シトナル
10月2日	十月二日云ク受負分ノ外ニ雑作分十五人工 昨十一月一日迄ニ入レ込ム也 今二日ヨリ入作ト定ム然レドモ職人エハ拙子受負分ノ様ニ申し置ク故其御心得ニテ在ラレヨト
日付なし	桑吉又云ク診察所素立雑作共惣成百五拾老工心算也ト
10月7日	上雪院廊下 十月七日頃ヨリ九日に至ル

表 5 明治 20 年・21 年の造園工事の抜粋

日付	明治20年(1887)
2月9日	大細業中細業移植 二十年二月九日平兵衛及兄弟子来リ千松助手ニテ移ス
3月29日	三月廿九日庭平来移西庭大小楓山櫻及米櫻山吹卯木植テ外園
4月	新庭欲植櫻 新原垂枝櫻 舟越及板屋町櫻 西伊場櫻 西方院淡紅二重瓣櫻 鴨江庵寺北櫻若石原氏東櫻 元日淡紅櫻
4月13日	油田尾藤氏櫻 (前略)浮根ヲ截取ラシム二尺許ノ者四此夜余之レヲ我國ニ植ユ 其二根ハ鴨江苗間又二根ハ芒類ノ東也(後略)
4月15日	元日淡紅櫻花 (前略)高二間以内一根二本立三尺許上ニテ四本トナリ廣ガ因テ樹形高カラス (中略)此樹ト伊場大樹ハ我庭ニ入ルハ工夫何如也豫メ庭平ト談スベシ
4月23日	エソ菊蒔子秋菊整頓 廿年四月廿三日廿四日庭平略老人半工
12月2日	十二月二日頃ヨリ庭平来
12月7日	移 元日櫻價七拾錢 幸内櫻價五拾錢 先ゾ南屏九日頃
12月8日	移 池川松二本謝シシカモ雌雄合目田毛 是九日植込
12月11日	移 昨日往擇高林松二本東屏ニ定ム 是十二日植込其処ハ元目サクラノ東北一藤北一是三本八十錢ノ内二本也一本ハ近日ウツスベシ
12月13日	文人画松ノ根ヲ掘廻シ藁包ヲ成シ立置キ十四日雨ニテ其俵置ク價ハ七拾五錢
12月15日	大松ノ根ヲ掘廻シ藁包シ置キ南屏松ト文人画松トヲ移シ
12月16日	大松ヲ十三人持ニテ移シ場ニ据ヘ立テ置ク大松ト南屏松ト二本ニテ價壹円廿五錢
12月17日	文人画松大松南屏松三本ヲ植込ミ定ム
日付	明治21年(1888)
2月26日	建仁寺垣材七寸上竹拾五本中島村平吉ヨリ買フ價八拾七錢五厘
2月23日	野口村平三郎山櫻價拾五錢 二月廿三日頃移来
3月8日	富塚小松八本許ヲ移ス 平兵工 千松 島吉 政吉 余ト五人往リ
3月11日	植平 政吉 去年買置ノ高林小三岐松ヲ移ス スイツバ数多
3月12日	古楓ヲ畑ヨリ園ニ移ス
3月24日	鴨江村喜太郎ヨリ櫻ヲ移ス是レ喜太郎ノ恵ム所ノ者也 同日岡部氏ヨリ絞萩ヲ移ス
3月26日	倉後ノ雄松ヲ辰巳隅籬内ニ移ス
3月30日	高松枯者二本ヲ除ク 突當屏前松ヲ西山ニ移ス
3月31日	園中小松二本ヲ元日櫻前ト西山麓トニ移ス 諸種萩芒数多假植ノ者ヲ庭中処々ニ分植ス置葉桔梗女郎花假植ノ者ヲ庭中処々ニ分植ス此日庭平曰ク白赤御殿假植ノ者ハ頃日已ニ庭中ニ移植スト
4月1日	植平 クロムヂ老東来ヲ示シ曰ク此物十束八拾錢一荷タツブリナツベシ 袖垣ニ八十束ヲ要ス(以下略)
4月1日	黒淡黒微黒ノ三柳等ヲロヂ外ニ移ス
4月2日	ヒメシバラ庭前岡籬ニ植ヘスミレタンボロヲ庭中処々ニ植ヘ物置新築場西ノホソバヲ其北ノホソバ間ニ移ス
4月3日	園ミソロノ諸卉ヲ移ス
4月4日	朝袖垣ヲクロムジニテ結フ事ニ決シ平兵工小太郎其事ニ取カヽリ五日八分戌六日雨 七日午后三時頃落成此朝興山竹ヲ移ス
4月13日	平兵衛小太郎安三人ノ庭工及ビ武田生ヲ携ヘ池川ニ至リ池川氏櫻ヲ觀ル樹高七間許地上二間許ノ所ヨリ上二間許ノ間枝ヲ張ル(以下略)
4月15日	平兵衛ヲ引き好櫻ヲ索ム(以下略)
5月13日	亭前柳條ヲスカス略半分ナルベシ
5月20日	伊場及蜷塚躰躰蜷塚桔梗女郎花 余庭平ヲ將テ彼処ニ至リコギ来リ(中略)翌日廿一日庭平再往桔梗女郎花ワレモコウ及諸シダヲコギ来リ
5月23日	庭平安暨二人往蜷塚高麗芝 壹車ヲ探リ雨ニ濡レテ午後三時頃帰リ芝ニ席ヲ覆ヒ置キ 翌廿四日処々ニ植ヘ其残ニハ水ヲ灌ギ覆ヒ置キ明日植ユル心得也
5月25日	庭平往 高町大森氏高麗芝ヲ土拂貳荷價貳拾錢ニテ買ヒ車ニ積テ持来リ略老坪半許アリ廿六日植込ミアリ且ツ西南隅ニ楓ヲ植ユ是レハ白隠東ニ假植シ置キアリシ者也
6月6日	中山大松北宮城野及新堂前経芒南ニシポリ小萩ヲ移ス 蝦夷菊苗ヲ改メ栽ユ
6月7日	仍他処ニ小萩ヲ移ス庭平曰ク裏門外竹欄内ニ在ル萩ハ大抵中立白萩也
6月10日	高山北腹ノ萩ヲ中断ス蓋シ絞萩也
11月23日	萩芒ヲ刈ル
11月24日	富塚大櫻 コギヤカシ廿五日移シ来ル樹價金七拾錢(以下略)
11月26日	澤村雪白絮徒樹價三拾五錢 午后庭平等四人往移来
11月27日	小藪村山櫻樹價五拾五錢 早朝庭平師弟及名残三人往キタ移来植
11月28日	助信村漆屋北隣浅紅櫻樹價五拾錢 庭平ト名残老人ト往キ移来植著日尚高シ此日手分ニテ安ト名残二人ト富塚松ヲ移来植著
11月29日	庭平庭安名残一人ニテ庭中櫻松数株ノ位置ヲ改ム午后千松来リ助ク
12月1日	假山 庭平庭安名残一夫改山容加風致 動洞壇大小二樹移作左近傍小松植于大洞櫻跡

補注：□の表記は、判読が不可能であった文字を示す。

表 6 明治 22 年の造園工事の抜粋

日付	明治22年(1889)
3月25日	溝東松ヲ西屏畔ニ移シ其跡ヘ大舟越櫻ヲ引ク
3月26日	蝦夷菊實ヲ蒔キ山吹ヲ溝東ニ移ス
3月27日	本郷櫻ヲ園中小屋北ニ移ス樹價三拾錢
3月28日	上中島金三郎櫻ヲ園中南籬畔ニ移ス樹價四拾錢 上中島次郎櫻ヲ倉西小門外ニ移ス樹價三拾五錢
3月29日	頭陀寺櫻ヲ園中小屋東ニ移ス樹價貳拾錢 梨接苗三種ヲ園中大島櫻苗間エ移ス(以下略)
3月30日	朝ヨリ庭平等二人政吉及名残一夫ト往キ赤松五株ヲ二車ニ載セ山ヨリ移シ来リシ時日没頃也一株ハ薄暮四株ハ夜ニ入り植ユ五株價四拾錢
3月31日	朝ヨリ庭平等二人及名残二人往キ赤松大二株小二ヲ二車ニ載セ山ヨリ移シ来リ
4月1日	昨ノ四松ヲ植ヘ畢リタルハ略午后二時ナルベシ雨来リ四人其家ニ帰ル
4月2日	此朝又四人往キ赤松五株ヲ二車ニ載セ午後二三時頃帰リ来リ此日ノ内ニ植ヘ畢ル廿一日ノ四株二日ノ五株ヲ合セ九株樹價九拾錢
4月3日	朝ヨリ又四人往キ名残櫻及ツツジヲ移シ来リ正午頃ヨリ二時半頃迄ニ植ヘ畢リ庭平天林寺オルコツト氏ニ赴ク名残櫻價三拾五錢
4月4日	朝名残二人昨日採リシ苔ヲ持チ来リ庭平二人越川櫻ヲ移シ来リ四人ニテ植事ヲナス越川櫻價四拾五錢 園中小雄松四尺許者ヲ西井南ニ移ス
4月5日	又四人来リ名残二人ハ苔ヲ植ヘ平安二人往キ赤松三株ヲ昼頃移シ来ル此日假山東阪北傍ノ松ヲ園中花壇北ニ移ス
4月6日	又四人苔ヲ植ユ午后五時雨来夜亦雨
4月8日	庭平等二人来リ舟越紺屋ヨリ霧島及ビ杜鵑花ヲ移シ溝東ニ植ヘ中坪百日紅下ノ高麗シバラ假山ヘ移ス
4月9日	平安二人支竹ヲ減ジ藤枝ヲ下ガ萩芒ヲ整頓シカキツバタアヤメ等ヲ整頓ス
4月10日	平安二人来リ園中竹欄ヲ換ヘ新シクシ等ヲナシ成功ヲ告ゲ切り揚ゲトス
4月11日	余政吉千堅ト安富河原白礫一擔許ヲ採ル午后三時出別久ヨリ雨ニ向テ往キ六時家ニ帰ル
4月12日	午后一時十分頃ヨリ庭平来リ山間水路ヘ白礫ヲ敷ク
4月14日	朝政吉千堅ヲ遣リ更ニ安富石ヲ採リ政吉ヲシテ前石上ニ敷カシム
4月17日	庭平庭狼藉ヲ埋シ午食後余庭平ト花ヲ船越富塚小藪ニ尋子暮帰
5月8日	兩人来リ午前雑事午后雄松ヲ山ヨリ別宅ニ移ス
5月10日	午后庭平運移萩等
5月31日	兩人来平兵エハ柳條ヲスカス
6月4日	平兵女郎花及カルカヤヲ移シ五日藤棚添千松竹
6月19日	庭平及安来獅々石韋ヲ二盆ニ分ケ且ツ高山二処及ビ南中山石傍ニ分植シ箭羽石韋ヲ分テ高山三処ニ植ユ此夜數時間雨
6月20日	平安二人来エソ菊(以下略)
6月21日	平安二人来リ大島櫻苗及ビ諸根分櫻苗ヲ外園ニ移ス
6月22日	二人来リ細葉長苗ヲ移シ生垣トス
6月23日	平安二人来諸植換
6月25日	二人来第三六角堂柳及ビ舊雄松等ヲ移ス大立萩ヲ小藪櫻西ニ移ス園中鷹羽芒ヲ西井南ト小藪櫻北ニ移シ西井南舊鷹羽芒ハ圃ヘ出ス絲芒ヲ高山南ニ移ス
6月26日	安一人来
7月6日7日	平兵一人来
7月13日	午后二三時頃ヨリ平安名残来リ萩ヲ移シ萩ヲ扶クル等ヲナス
7月17日	又平兵来ル坎
7月25日	午后四時頃ヨリ平兵一人来ル
7月31日	三日間平安二人来リ蟲除キ松スグリ橙モクコク剪入萩スカシ等ヲナス
8月25日	又平一人来リ萩ヲ理ス
9月13日	平安及ビ名残一人来リ大櫻大柳ノ半臥ヲ起シ萩芒諸草花ヲ刈リ清メ(以下略)
10月3日	平兵衛来

表 7 「隠居庭」の造園工事の抜粋

日付	明治23年(1890)
3月25日	廿五日午后五時過ギ松大道迄来リ一松ハ奥倉南ニ植ヘ一松ハ隠居庭西南隅ニ植ヘ畢テ七時過ギ也
3月26日	廿六日隠居南屏ニ對スル外園ニ低小土堤ヲ築キ大島櫻苗十二本ヲ列植シ其相去略四尺其間毎トニ諸櫻苗ヲ繁ク植ユ富塚大櫻ノ枯枝ヲ截リ其補トシテ久ヨリ雄松ヲ添ヘ移ス
3月30日	三十日木戸山椒ヲ移シ隠居北室外ノ四ツ目籬ヲ結ブ
4月7日	七日正午隠居中庭ニ植ヘアリ午后伊場ヘ往キ又赤雄二松ヲ持チ来リ同庭ニ植ユ
7月8日	七月八日平安二人来リ中坪新植隠居庭少整頓畑樹ヲ内ニ入ル等
日付	明治24年(1891)
2月3日	廿四年二月三日節分舊曆十二月廿四日 同日櫻連翹等諸樹ニ寒肥ヲ置ク 馬領家櫻分根苗ヲ四本取りテ別処ニ種ユ蓋シ大伊場分根苗一本取り植ユル也本舍西庭矮松二株ヲ隠居庭ニ移ス 天神森櫻ヲ庚申堂前ニ移ス 同日馬領家櫻分根苗ヲ四本取りテ別処ニ種ユ蓋シ大伊場分根苗一本取り植ユル也本舍西庭矮松二株ヲ隠居庭ニ移ス 天神森櫻ヲ庚申堂前ニ移ス
2月8日	平安政三人ニテ楓ヲ舟越幸内ヨリ移シ隠居庭ニ植ユ
2月9日	舊曆正月元日也庭平安及政名残楓ヲ隠居庭ニ移ス樹價五拾錢庭入南叟良八二人助力ス
2月10日	十日平安二人来リ隠居庭殘名残楓根ニ鴨江畑赤土三車入レル昨日モ蔽赤土三荷許入レタリ今日ハ其他隠居庭整頓及樹支日斜内庭ニ往ク
4月1日	四月一日大安ト名残来リ政吉ト三人シテ又競馬山ヨリ松一株ヲ移シ来リ隠居庭ニ植ヘ込ム
4月17日	松ヲ隠居庭ニ移ス
6月22日	廿二日又三人来リ楊梅ヲ名残ヨリ移シ隠居井辺ニ植ヘ小柏ヲアコヤヨリ貰ヒ隠居庭ニ種ユ

は左官定により「倉」壁の修復工事が行なわれていた²⁰⁾。

以上により、明治15年の8月から10月にかけて2ヶ月間の工事は、「診察所」の素建工事で、翌16年9月の補修工事は、屋敷全体の軽微な補修工事であったと考えられる。

4. 2 第2期工事について

第2期工事(明治19年から明治24年まで)は、東海道沿いの建物棟の増築、および「園亭」と「隠居」の新築など、銅版画に描かれた屋敷形態に導く一連の工事である。しかし『明治年中雜録』には、屋敷工事に関する記録は少なく、屋敷の成立過程は定かではない。一方、庭園については、樹木の植栽位置から材料の搬入期までが詳細に記録されており、これに基づいて、屋敷地内の何処を対象に造園工事が行われたかを推定することが可能である。明治20年から21年にわたる築庭の内容を整理したものが[表5](明治20・21年の造園工事の抜粋)である。主な内容は、明治20年4月の新庭の桜の選定から始まり、同年の12月7日に「元目桜」²¹⁾等の植栽位置を「先づ南堀」と定めているが、銅版画の細部に着目すると、南敷地の南堀側には桜が描写されていないため、「元目桜」は北敷地の「西庭」の南堀付近に植えられたと推測される。また、松については銅版画でも各所に植樹されている様子が表現されているが、植樹の様子は、大松を13人で運搬するなど大掛かりなものであった。次に明治21年の築庭の内容については、2月下旬から4月初旬までは、桜や楓、松の植樹から、庭園の各所にある松を「西庭」に移植するなどの作業に加え、仮植であった植物を庭の所々に分け植えるものであった。同年の11月24日には、近隣の桜1本を新たに70銭で購入し、11月26日から28日には3本の桜を総額1円40銭で購入し、14人工の庭師により邸内に運び込み植樹されている。その後、12月1日に「仮山」²²⁾の山容の改めが、庭師3人工により行なわれている。これら21年の築庭内容は、主に「西庭」付近の整備であったと推測される。

明治22年の築庭の内容を整理したものが[表6](明治22年の造園工事の抜粋)である。これによれば、3月から6月にかけて、64人工の庭師が造園に従事しており、3月末には「溝東」²³⁾に桜や山吹を移植し、また、新たに購入した桜4本を「園中」や「倉(土蔵)」²⁴⁾の西小門近くに植え、赤松17本を園内に運び寄せ植樹している。さらに、4月9日には、萩、芒など草花の手入を行い、翌10日には、「園中」の竹垣を組み、12日には山間に白石を敷き詰めるなど、造園工事の仕上げ段階の様子が窺える。これら一連の「溝東」や「園中」「西山(西庭)」の工事は、8月24日の「園亭」の上棟式に先駆けた工事であり、この時点において庭園の骨格がほぼ完成したと思われる。なお、翌年の明治23年3月16日に、新亭(園亭)の北庭に桜が植樹され、「園亭」付近の造園に着手している様子と²⁵⁾、明治23年の3月29日から4月1日に集中して桜見客が80人近く来訪した記録から²⁶⁾、「園亭」は、この時期までに完工していたものと推測される。

次に、敷地の最奥地にある「隠居庭」の工事内容について整理したものが[表7](「隠居庭」の造園工事の抜粋)である。「隠居庭」の最初の造園工事は、明治23年3月25日、西南隅の松の植樹であった。その後、赤松などを植え、明治24年6頃までに整備された様子が窺える。なお、明治23年3月30日に「隠居」北室外の四ツ目垣が結ばれるなど、外構に着手している点と、6月20、21日の2日間にわたり浴室や玄関等のタタキ工事²⁷⁾が行なわれている点から、「隠居」と呼ばれる建物は明治23年7月頃に竣工したと推定される²⁸⁾。

4. 3 第3期工事について

第3期工事は、明治27年1月25日の、正が大工五三郎に「中亭(園亭)」の拡張工事を依頼することに始まり²⁹⁾、同年の3月21日に起工されている³⁰⁾。また、翌年28年の11月14日には建具寅に、南室の2間半4本引きの障子を注文している³¹⁾。

翌年28年7月には、「土蔵」の工事が行われた³²⁾。土蔵工事の人工を[表8](土蔵修繕工事人工表)に整理したように、

表8 土蔵修繕工事人工表

日付	大工	左官	石工	黒鍬	材料
7月3日	2				
7月4日	1	3	1		
7月5日		1			
7月6日		2			伊豆石22本
7月7日		1			
7月8日		1	1		
7月9日	1		1.5	2	伊豆石11本
7月10日	1	1	3	2	
7月11日	2	2			
7月12日		1			
7月13日					
7月14日		1			
合計(人工)	7	13	6.5	4	伊豆石33本

工事がなされたものと考えられる。

また、勝組による亜鉛引鉄板を用いた「西方雪院(上雪院)」および「聚遠楼」の屋根葺替工事が、同年の9月、10月に起工されたが³⁴⁾、銅版画の細部に照合すると、図6に掲載した門長屋の拡大図から、門長屋と、その背後の西堀沿いの建物の屋根仕上げが同一であることより、西堀沿いに建築された、廊下を有する小規模な建物が「上雪院」で、「聚遠楼」は、門長屋の中央にある二階部分と考えられる。「聚遠楼」の名称は明治24年の記録に確認されるが³⁵⁾、当時の建物の使用の様子が、明治22年4月19日の原文に「微雨モ亦一奇ヲ添へ(中略)楼上最奇観桑吉賞歎シ曰ク名古屋伊藤ノ名櫻庭に譲ラズ」と、施主の貞二と大工桑吉の会話記録が残されており、楼すなわち「聚遠楼」からの桜の眺めを賞賛した内容である。他にも、春の桜の時期に土地の名士を招いて、花宴が盛大に開かれた様子などが記録されている。「聚遠楼」の一階には、式台付の玄関が描かれ、その左右に連続格子で覆われた診察所建物が見られる。「診察所」については、明治15年9月20日の原文に「屋根勝等九月廿日頃老匠一人来板ヲモミ九月廿日三人来リ葺ク」とあり、「板ヲモミ」の記述から類推して、「聚遠楼」と同じ亜鉛引鉄板で仕上げられ、銅版画からも、門長屋を診察所とし³⁶⁾、その一部を二階建にし眺望良好とした様子がうかがえる。

その他の建物位置については、「隠居」は、前述した敷地の拡張経緯からも、南敷地の東堀沿いにある建物と推定し、「園亭」(新亭、中亭)は、北敷地の中央より東側にある、旧細井屋奈宅地側の建物と考えられる。「奥倉」は南敷地の西堀沿いの二階建物を指し³⁷⁾、「小屋」は南敷地の北堀沿いにある狭小な建物、「厨房」³⁸⁾と「湯殿」は、煙突が二箇所描かれていることから、北敷地の東堀に沿った細長い建物と推定される。北敷地の南西角には、「西庭」と呼ばれる桜や松を多数植栽した築山があり、北敷地の東寄りにある「園亭」の座敷から庭園を望む構図となっている。南敷地と北敷地の境には「土蔵」があり、その両脇の小門から南敷地に誘導され、南敷地の西堀沿いに倉、東堀沿いには貞二の住居と思われる「隠居」が建設され、その南側には、「隠居庭」と呼ばれる、松と楓を植え、門と飛び石を配置した茶庭風の築庭が見られる。さらに、建物北側にある庭は、「園中」と呼ばれ、桜樹を主体とした作庭手法である。

以上の一連の工事内容の解明により、屋敷内の建物と庭園の配置について、図5の「屋敷見取図」に示す内容が結論付けられた。

この他に、明治29年(1896)9月18日頃、大工五三郎に「裏門外家屋」の建築の相談を持ち掛けており³⁹⁾、さらに、同年10月12日には、田圃由組に「裏門外家屋」の井戸の掘削を依頼している⁴⁰⁾。この内容から、屋敷をさらに拡大する計画があったと推察される。

4. 4 関連職人について

第1期から第2期までの大工工事には桑吉が従事しており、左官工事は定、板金工事は勝組が継続して従事している。さらに第3期の大工工事は田町の五三郎が担当し、左官、板金工事に関しては第1期2期と同じ人物が担当した。桑吉は本名を高橋桑吉といい⁴¹⁾、新町に住み、銅版画に見られる屋敷を完成させた人物である。また、萬福寺の木工事の請負も確認された⁴²⁾。さらに、細井屋奈宅地の土地売買にも関わり、大工職以外の関与もみられた。

庭平(庭作平兵衛)は、記録に見える庭師名では最も多く確認され、造園工事の一連の指導指揮を行なった人物である。浜松地方における庭師の系譜については、これまでにほとんど解明されておらず「庭平」の名も初出であるが、庭平は地元の医師の福島豊策邸や、茶産業の施設である「百里園」の造園に携わった経緯が記されている⁴³⁾。内田家の別宅や野口町の邸宅にも従事し⁴⁴⁾、内田家の造園全般に関わり、また、貞二と共に樹木の調査に現地に赴くなど、施主の好みを熟知した内田家の専属的な庭師であった。さらに、地元の名士や、企業からも造園の依頼を請け負うほどの、当地方を代表する庭師であったことが確認された。

5. まとめ

以上の『明治年中雑録』の分析によって、内田家の屋敷拡張経緯と、敷地内の建物および庭園に関する工事の具体的内容が明らかとなった。建物の起工と造園工事には相互に時期的な関連がみられ、建物群の充実にともない庭園の美観が整えられていった。

屋敷と庭園の成立過程を整理すると、明治15年から16年の間に行なわれた〔第1期工事〕は、「診療所」の素建や建物全般の軽微な修繕であり、樹木の移植も同時期に行なわれた。明治19年1月の隣地買収により、『静岡県明治銅版画風景集』の銅版画に見られるような敷地形態が成立した。〔第2期工事〕は、建物の新築工事に先駆け、

明治20年12月末から「園亭」近くの「西庭」の造園が始まり、明治22年3月頃からは、「園中」付近の造園にも着手し、明治22年6月にかけて植栽を主とした庭園の骨格がほぼ完成した。その後、8月に「園亭」が上棟し、翌年23年3月に完成し、「隠居」の完成も同年7月頃であったと推測される。「隠居庭」は、明治23年の3月頃から本格的に造園工事が始まり、明治24年6月頃までに銅版画に見られる庭園形態に至ったと考えられる。以上から、建物の起工及び造園時期の順序は、北敷地の「西庭」に続き「園中」へと造園工事が進められ、その後「園亭」と「隠居」の新築工事が行なわれた。こうした建物と庭園の相互関連については、樹木の搬入経路の確保を考慮したことが要因に挙げられ、南敷地の南側から材料を搬入するために考えた建築順序であったことが推測される。〔第3期工事〕は、「土蔵」「上雪院」「聚遠楼」の補修工事である。よって、これら3つの建物は建築年数が比較的経過していた建物と考えられる。

本研究で取り上げた『静岡県明治銅版画風景集』には、浜松市一帯の屋敷が多数掲載され、とりわけ既に現存していない家屋や庭園の様子を知る上で重要な資料である。本研究により、内田家の植栽の調達は、名残や鴨江、富塚といった浜松城の西地域一帯の内田家近隣であった点が明らかになったが、こうした特徴は、おそらく浜松城下町内にある明治期の屋敷庭園全般に共通するものと予測される。当地方の庭園の生産体系については、引き続き研究を行いたい。

本研究をまとめるにあたり、『明治年中雑録』の所蔵の状況に関して、浜松市史編纂室の鈴木正之氏より多くの御教示をいただきました。厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 渡辺保忠：静岡県磐田郡における明治初期洋風三小学校について、日本建築学会論文報告集第60号、pp.665～668、1958.10
- 2) 浜松市役所：浜松市史二、浜松市役所、1971
- 3) 土屋重朗：静岡県の医史と医家伝、清水市戸田書店、1973
- 4) 浜松市役所：濱松市史(復刻版)、株式会社名著出版、1974
- 5) 川添登：蔵、株式会社文藝春秋、1980
- 6) 東海展望社：東海展望6月号、東海展望社、1985
- 7) 神谷昌志：浜松古跡図会、有限会社明文出版社、1987
- 8) 若林淳之：静岡県明治銅版画風景集、羽衣出版有限公司、1991
- 9) 大野幸夫：さらば新町、されど新町、大野幸夫、1992
- 10) 浜北市史編纂委員会：浜北市史通史下巻、浜北市、1994

図6 内田正邸 診療所拡大図(『静岡県明治銅版画風景集』より抜粋)

- 11) 静岡県：静岡県史通史編 3 近世 1, 静岡県, 1996
- 12) 二村 悟：横浜における静岡茶の輸出と日除けの発生について，日本建築学会計画系論文集, No. 558, pp. 265～270, 2002. 8
- 13) 不破正仁：明治期の関東地方における屋敷林の樹木構成パターンとその分布銅版画分析をもとにして，日本建築学会計画系論文集 第 74 巻, No. 638, pp. 855～862, 2009. 4

注

- 注 1) 貞二は、号を乾隈といい、水野藩の儒員八木正路にしたがい、大雄庵の楚州に漢学を学び、江戸に出て、朝川善庵の門に入り、さらに塩谷岩陰にも学び、岩陰塾の塾頭となった人物である。また、蘭学を修め、当時の眼科の大家土生の門に入り学び、郷里の浜松に帰り開業した。貞二の生存期間については諸説ある。文献 4, p. 899 によれば、明治 32 年(1899)5 月 2 日 73 歳没と記載され、また文献 6, p. 47 によれば、文化 8 年 (1811) 生まれ、明治 32 年に 73 歳没とされる。しかし、本研究に取り上げた『明治年中雜録 参』の明治 18 (1885) 年 3 月 26 日の自筆の原文によれば、「玄忠寺ニ於テ小栗宮崎両翁ニ逢フ小栗七十二宮崎六十七余七十五(以下略)」とあることから、明治 32 年(1899)5 月 2 日没から計算して 89 歳没となる。
- 注 2) 全部で 437 図の銅版画が掲載されており、その内訳は明治 25 年刊行の『日本博覧図・静岡県・初篇』228 図と、明治 26 年刊行の『日本博覧図・静岡県・後篇』200 図(他に番外 9 図)の合計 437 図である。そのうち重複掲載された 68 図を除くと、全部で 369 種類の銅版画が収録されている。
- 注 3) 文献 6, p. 46 によれば、『明治年中雜録』には、近代医学の育成に大きな貢献をもたらしたとされる、ドイツ人の医学者ベルツ博士が浜松を訪れた際に、内田家で歓迎した様子が記録されている。
- 注 4) 内田家は江戸時代から続く医家の家系であり、貞二には正太郎(正)、周平(遠湖)、萬平、勉平の四子があり、長男の正は明治 22 年(1889)に初代町長に就任している。
- 注 5) 松屋山萬福寺は、浜松市中区八幡町に現存する曹洞宗の寺院である。
- 注 6) 筆者撮影。『明治年中雜録 拾参』は欠失。
- 注 7) いつ建屋が消滅したのかは定かではないが、文献 9 によれば昭和 12 年 6 月新町国道 1 号線拡幅以前のものとされる「明治末、大正、昭和初期、新町住民図」中で、所在地に内田家の記載が確認できない。
- 注 8) 明治 28 年 2 月発行の地図「遠江國敷知郡濱松町全圖」の新町部分に、「医師 内田正」と明記されている。
- 注 9) 文献 13 の、同著者による日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)2007 年 8 月号『明治期銅版画に描かれる屋敷林の特徴 - 静岡県の農家が描かれたものを対象として - 』pp. 437～438 では、『静岡県明治銅版画風景集』を用いた考察を行い、ソテツが前近代から当地区に存在する特徴的樹木構成である可能性が指摘されている。
- 注 10) 文献 12 に基づく。
- 注 11) 文献 1 に基づく。
- 注 12) 図 4 に記された宅地図は、上部が東海道沿となる。
- 注 13) 画工の調査が行われた明治 24 年 8 月当時の推定見取図で、北敷地図は図 4 の宅地寸法に基づき、南敷地は奥行を 20 間として作成した。
- 注 14) 『明治年中雜録 貳』明治 16 年 2 月 25 日の原文「我宅地々券相續人正名ニ改ムル願書二月廿五日頃タ印シ戸長々澤氏迄出ス」による。
- 注 15) 『明治年中雜録 』の記載内容には、資産に関する記述も見られ、貞二の家計簿的な役割もしていた。特に、造園に関する記録が多く掲載されているため、貞二の担当は庭園を主としていたと考えられる。また、明治 27 年 1 月 25 日の原文に「正兄先づ中亭擴張ヲ囑ス」とあることから正が屋敷工事を担当していたと考えられる。
- 注 16) 『明治年中雜録 壹』明治 14 年 10 月 31 日の原文「左官定十月三十一日より来リ倉壁修繕ニ従事ス壱人工三拾五錢」「十一月二日迄三人工作料メ金壱円五錢酒銭五錢附シ渡ス」による。
- 注 17) 『明治年中雜録 壹』明治 15 年 4 月 20 日の原文「離亭天井 四月二十日桑吉張り始ム」による。
- 注 18) 『明治年中雜録 壹』明治 15 年 5 月 18 日の原文「左官定信兩人五月十八日来リ離堂天井下壁大津塗舎東壁中塗大津北半ヲ塗ル同十九日信老人来リ塗畢ル」による。
- 注 19) 『明治年中雜録 貳』明治 16 年 9 月以来の原文「左官用事 流シ棚脇離亭西箒持座 倉東瓦縫 倉東壁補 用心井塵辟輪 湯殿タタキ 湯殿シキイ下 倉底鼠穴 倉前石カケ縫 梨タタキ補 棧南蜂穴 離亭北上トイ流シ池」による。
- 注 20) 『明治年中雜録 貳』明治 16 年 11 月 11 日の原文「左官定十一月十一日より来リ倉壁修覆」による。

- 注 21) 「元目桜」は[表 5]の 4 月 15 日の原文に書かれている桜のことである。内田家に使われた植木は主に近隣の私邸庭園からの移植や、山から採取したものであるが、桜の呼称に地名である「元目」をつけている。
- 注 22) 「仮山」とは、庭園の景として土を盛って造られた山の総称である。
- 注 23) 「溝東」の位置は不明である。
- 注 24) 銅版画の「土蔵」の西側に小門が描かれていることから、この倉とは「土蔵」と考えられる。
- 注 25) 『明治年中雜録 漆』明治 23 年 3 月 16 日の原文「三月十六日舟越寺櫻及ビ野口山椒ヲ移シ櫻ハ新亭北椒ハ小屋北ニ植ユ櫻價五拾錢山椒價拾錢」による。
- 注 26) 明治 22 年春から内田家が催した花宴の招待客は、内田正が浜松町長就任時期に、町政に深く関与した人物が多く名を連ねており、内田家の庭園は社交場として活用されていたと推察される。
- 注 27) 『明治年中雜録 漆』明治 23 年 6 月 20 日の原文「タメキ六月二十日廿一日隠居浴室及ビ北簷下玄關ノ地敷成」による。
- 注 28) その他に、『明治年中雜録 漆』明治 23 年 6 月 8 日の原文「(前略)此時正ハ不在母ハ本舎ニ居余ハ隠居ニ在テ阿準ノ告ゲヲ待チ(以下略)」がある。また、『明治年中雜録 漆』明治 24 年 1 月 18 日の原文に「十八日夜青木我隠居ニ宿ス」とある。
- 注 29) 『明治年中雜録 拾』明治 27 年 1 月 25 日の原文「大工五三郎廿七年一月廿五日来テ我家土蔵修繕ヲ議シ正兄先づ中亭擴張ヲ囑ス」による。
- 注 30) 『明治年中雜録 拾』明治 27 年 3 月 21 日の原文「中亭南補小室廿七年三月廿一日一匠来起工(陰曆二月十五日也)廿九日立柱」による。
- 注 31) 『明治年中雜録 拾貳』明治 28 年 11 月 14 日の原文「廿八年十一月十四日立具寅ヲ呼ビ中亭南室二間半四本引ノ障子ヲ註文ス」による。
- 注 32) 原文には、工事建物の名称が記されていないが、注 29 の原文によれば、正が土蔵修繕について大工五三郎と議論しており、また、伊豆石を使用していることから、明治 28 年 7 月の修繕工事は「土蔵」の工事と推定される。
- 注 33) 『明治年中雜録 拾肆』明治 31 年 1 月 17 日の原文「三十一年一月十七日左官定等土蔵ノ舊表壁ヲ削リ中塗ニ従事ス」による。
- 注 34) 『明治年中雜録 拾肆』明治 31 年 9 月 21 日の原文「九月廿一日鎔勝男持チ来リ日ク道總亞鉛引鍊板長五尺幅三尺物廿四枚價金廿貳円四拾錢也ト是レ西方雪院屋上葺料也」と、明治 31 年 10 月 30 日の原文「三十一年十月三十日屋根勝組等来リ聚遠楼葺換ニ従事ス(以下略)」による。
- 注 35) 「聚遠楼」の名称は、明治 24 年 2 月 2 日の原文「松島氏内友山鉞三君来リ此夜松島氏ハ聚遠楼ニ宿ス」に記載が確認できる。
- 注 36) 診察所が門長屋より内側に設置される事例は『静岡県明治銅版画風景集』の「静岡県敷知郡白脇村三島醫士藤田茂齋」などに見られる。
- 注 37) 『明治年中雜録 漆』明治 23 年 6 月 8 日の原文「渠来リ奥倉ノ棧阿夫佐ノ居ル処へ上ル(以下略)」の「棧」から二層の建物であることが理解できる。銅版画の南敷地の西堀沿いの倉の二階東壁には窓の描写が見られる。
- 注 38) 『明治年中雜録 漆』明治 23 年 6 月 18 日の原文には「又三人来リ柳ヲ名残ヨリ楓ヲ作佐ヨリ移シ俱ニ厨前ニ植ユ」とあり、銅版画の描写にも煙突のある建物前に柳が確認される。
- 注 39) 『明治年中雜録 拾貳』明治 29 年 9 月 18 日頃の原文「大工五三郎廿九年九月十八日頃夜来リ裏門外一宅家屋工事ヲ談ズ」による。
- 注 40) 『明治年中雜録 拾貳』明治 29 年 10 月 12 日の原文「廿九年十月十二日裏門外新宅地新井ヲ鑿ツ田圃由組ニ命ズ」による。
- 注 41) 『明治年中雜録 陸』明治 22 年 5 月 21 日の原文「敷知郡濱松町新町十八番地 高橋桑吉印」による。
- 注 42) 『明治年中雜録 伍』明治 21 年 3 月 12 日の原文「(前略)萬福寺廊及ビ小室高橋桑吉受普請諸材諸工料金拾八円佛方ノ内へ預リ此日阿夫佐ニ命ジ仕舞ハシム此金桑吉へ渡ス左記ノ如シ 廿一年三月十一日 一金六円也桑吉河岸行ニ付先ヅ我家ニテ取換へ渡ス同月十五日 一金四円五拾錢桑吉へ渡ス(以下略)」による。
- 注 43) 「百里園」とは、三方原の開拓地の茶園造成にともない、地元の有力者で設立した製茶工場である。工場の敷地内には樹木が植栽され、その様子を『静岡県明治銅版画風景集』の銅版画に見る事ができる。『明治年中雜録 捌』明治 24 年 9 月 1 日の原文に「九月一日又三人来以上三個月ニテ松ヲ洗シ畢ル因テ二日ヨリ百里園ニ往ク」とあり、文中の「三人」とは庭平・大安・小安を指す。
- 注 44) 『明治年中雜録 壹』明治 14 年 11 月 7 日の原文「中坪疎籬十一月七日午后ヨリ平兵衛来リ余ト共ニ野口ニ往キ竹ヲ伐ル此日平兵衛餘暮ヲテ庭中整頓」や、『明治年中雜録 漆』明治 23 年 4 月 1 日の原文「四月一日大島櫻苗ヲ別宅ニ移シ(以下略)」により、別宅の庭園や、貞二の実家である野口町の庭園に出入りしていた様子が確認される。

(2009 年 7 月 10 日原稿受理, 2009 年 11 月 6 日採用決定)